

# 今後の天候について

2017/11/16

株式会社ウェザーマップ

107-0052 東京都港区赤坂5-4-7 THE HEXAGON 5F

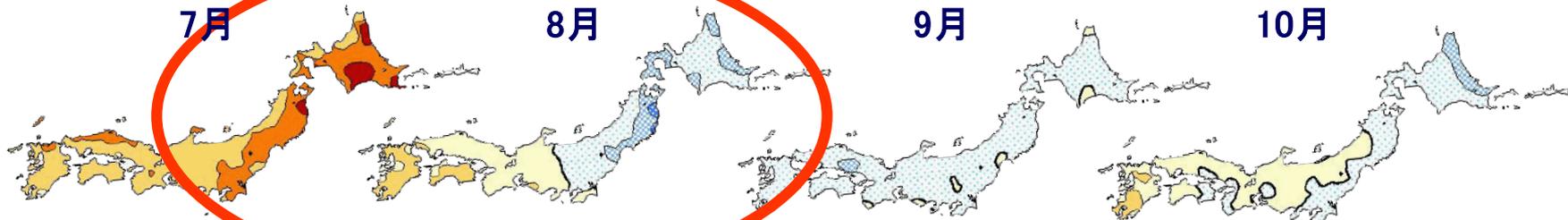
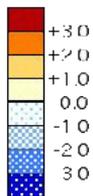
TEL:03-3224-1785/FAX:03-3224-1786

<http://www.weathermap.co.jp/>

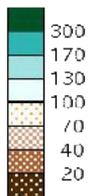


# ①2017年7～10月の天候

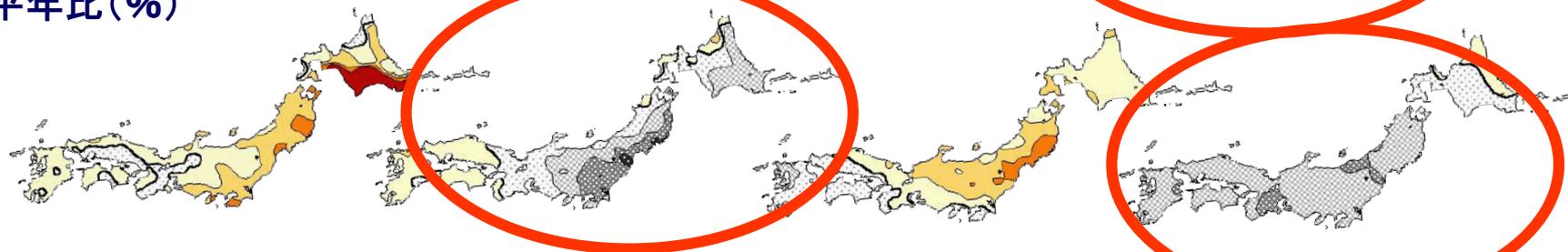
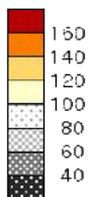
## 平均気温平年差(°C)



## 降水量平年比(%)



## 日照時間平年比(%)



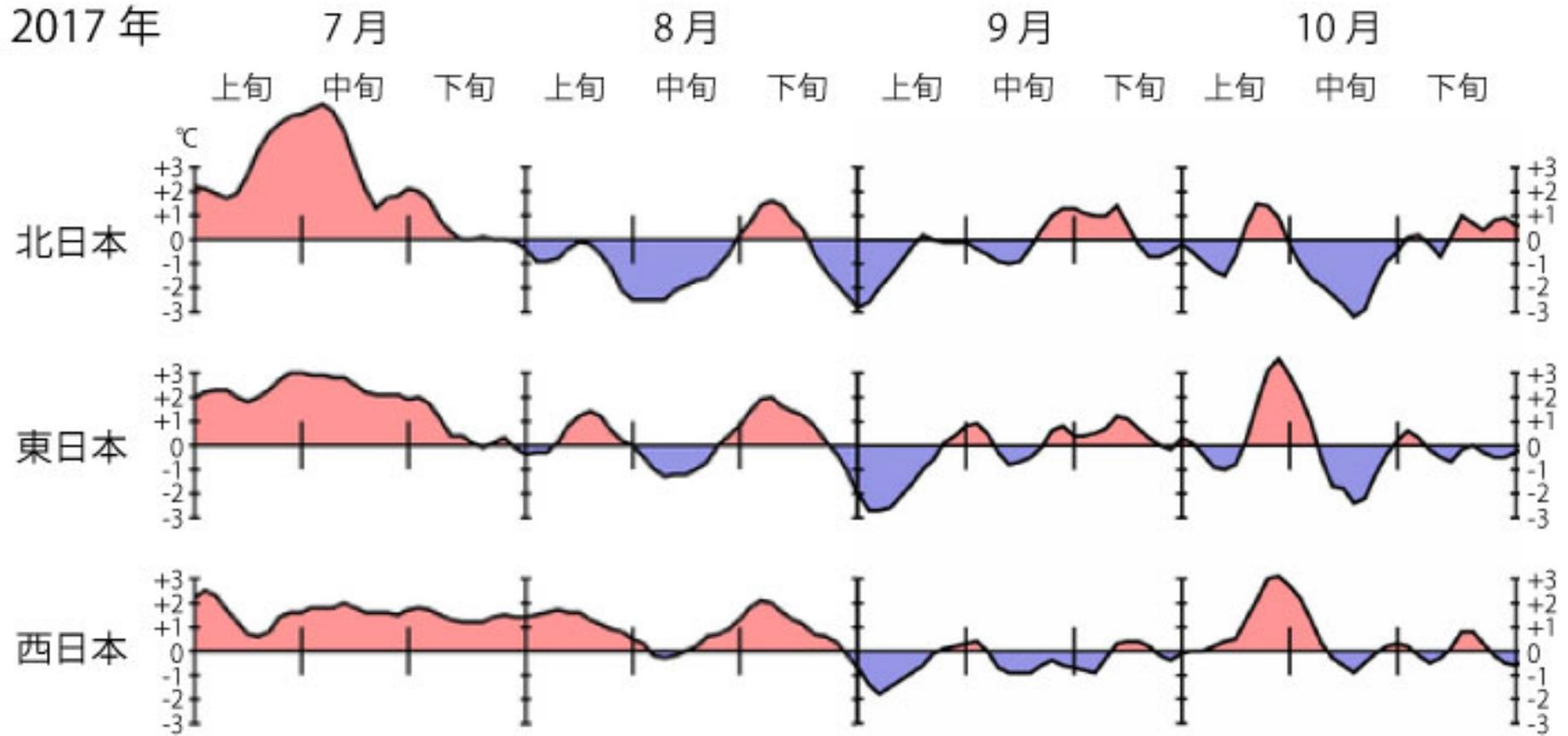
7月

8月

9月

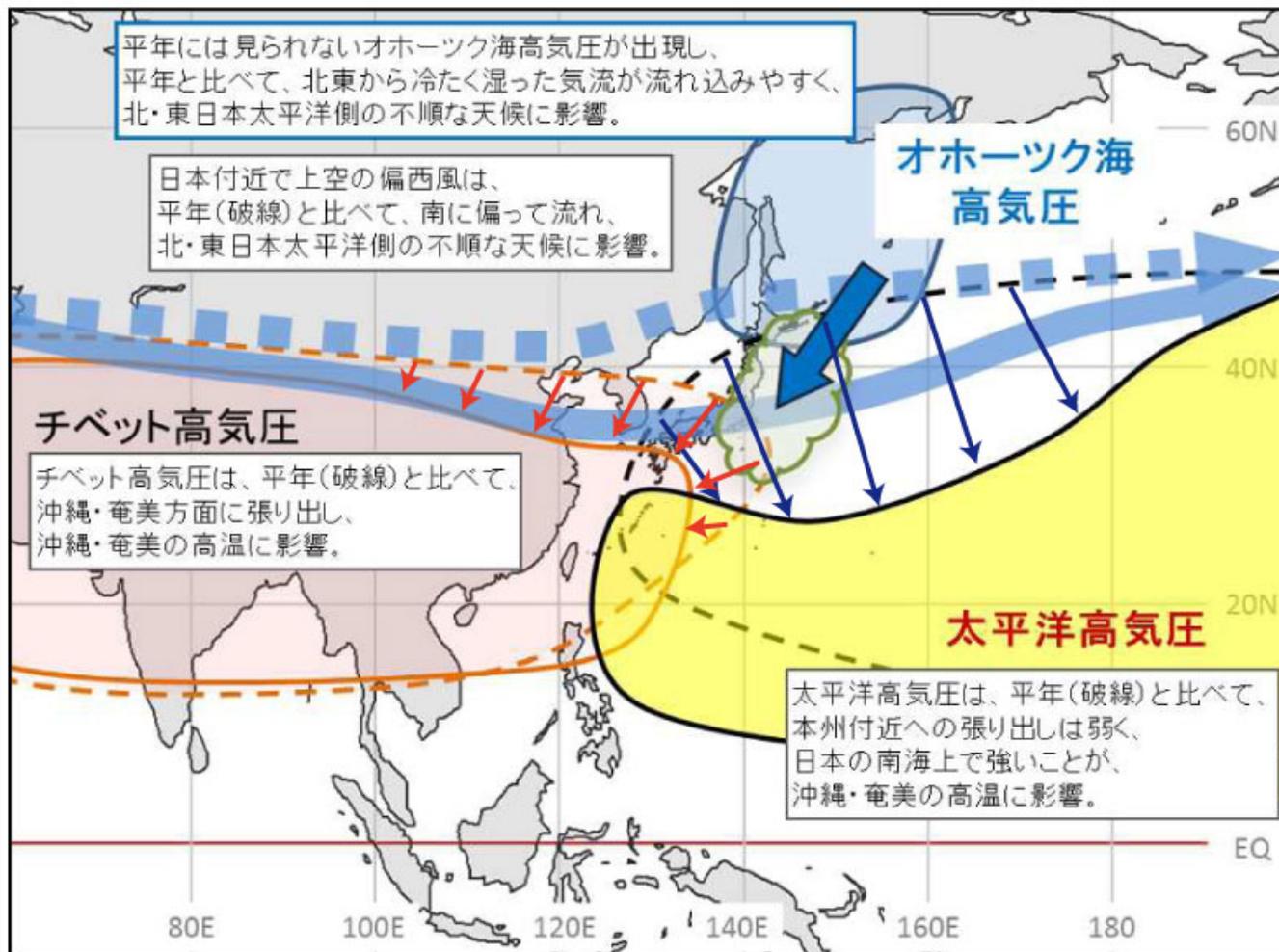
10月

## ②2017年7月以降の気温変動

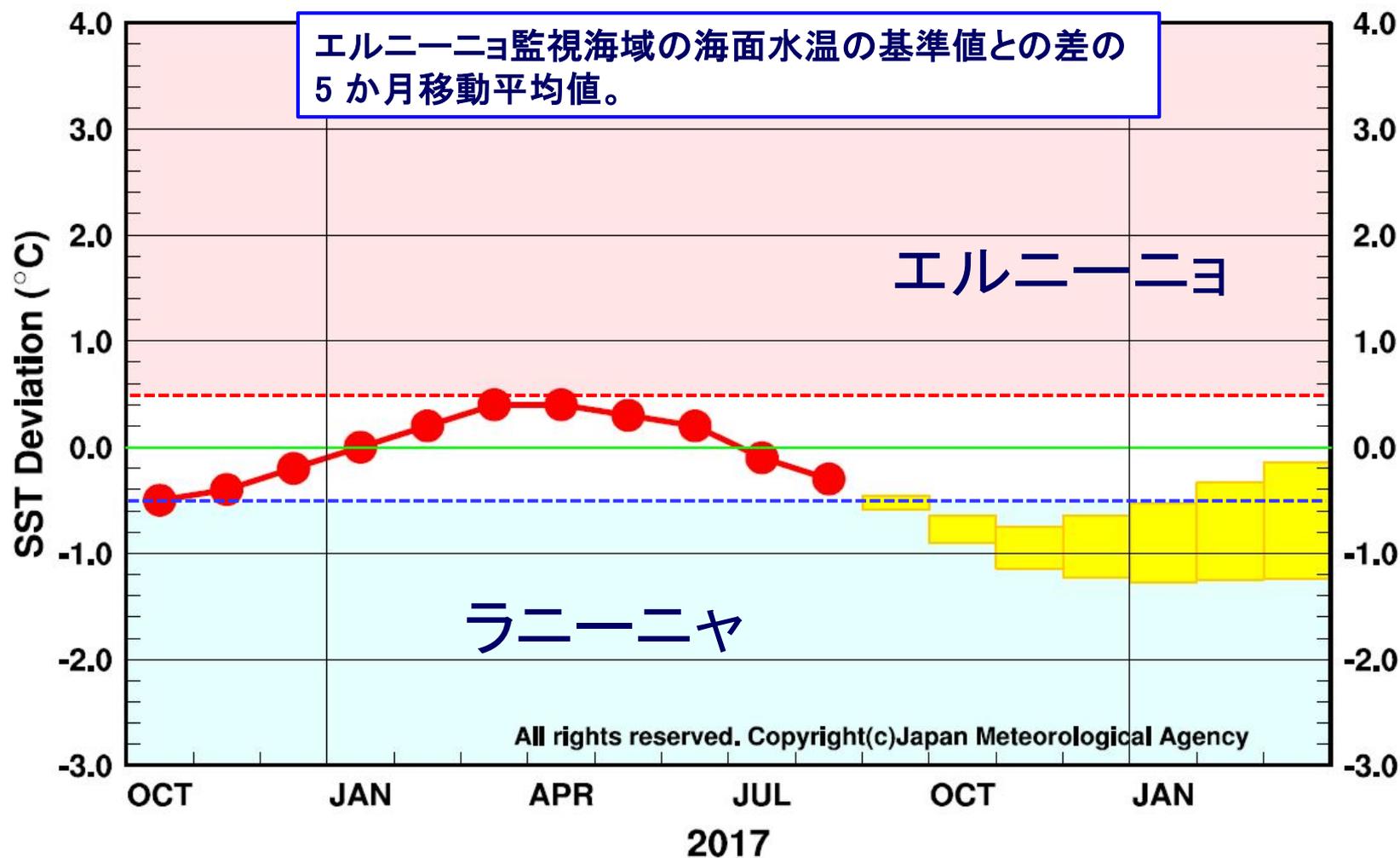


地域平均気温平年差の5日移動平均時系列

### ③不順な天候に関する大気の流れの特徴(2017/8)



#### ④エルニーニョ／ラニーニャ現象の経過と予測(2017/11/10発表)

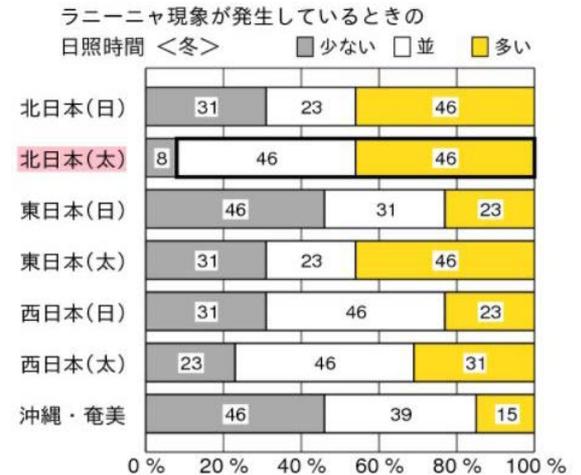
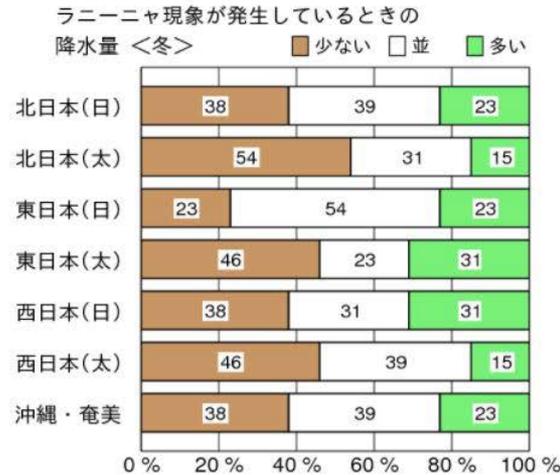
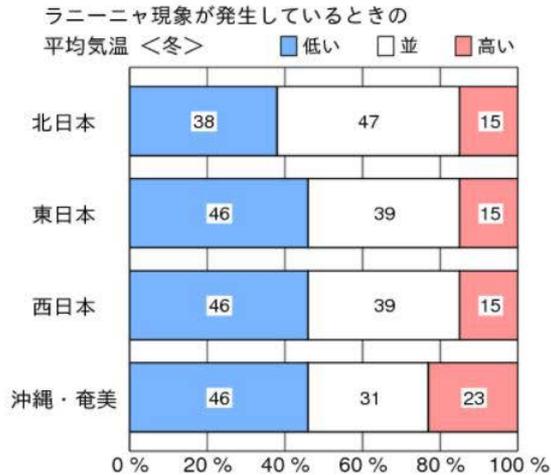


## ⑤各国気象機関の予測

- **ラニーニャ現象時の特徴が持続しており、冬の終わりまで持続せずにラニーニャ現象の発生に至らない可能性もある（40%）が、発生に至る可能性の方がより高い（60%）。**（11/10気象庁発表）
- **現在平常の状態が続いていて、年内にラニーニャ現象が発生する確率は50%**（11/8豪気象局発表）
- **現在平常の状態が続いていて、北半球の秋から冬（2017/18）にかけて、ラニーニャ現象の発生する可能性が高い（55～60%）。**（11/6米気候予測センター発表）

期間は短く、規模は小さい

## ⑥ラニーニャ発生時の日本の冬(12~2月)の天候の特徴



統計的に有意な傾向としては、「北日本の太平洋側で日照時間が平年並か多い傾向」となっていますが、気温を見ると暖冬になる傾向は見られません。

# ⑦11~1月の予報(平均気温)

	平均気温 11月	平均気温 12月	平均気温 1月
北日本	低 30 並 <b>40</b> 高 30% <b>ほぼ平年並</b> の見込み	低 20 並 <b>40</b> 高 <b>40%</b> <b>平年並か高い</b> 見込み	低 20 並 <b>40</b> 高 <b>40%</b> <b>平年並か高い</b> 見込み
東日本	低 30 並 30 高 <b>40%</b> <b>ほぼ平年並</b> の見込み	低 30 並 <b>40</b> 高 30% <b>ほぼ平年並</b> の見込み	低 30 並 <b>40</b> 高 30% <b>ほぼ平年並</b> の見込み
西日本	低 30 並 30 高 <b>40%</b> <b>ほぼ平年並</b> の見込み	低 30 並 <b>40</b> 高 30% <b>ほぼ平年並</b> の見込み	低 30 並 <b>40</b> 高 30% <b>ほぼ平年並</b> の見込み
沖縄・奄美	低 20 並 <b>40</b> 高 <b>40%</b> <b>平年並か高い</b> 見込み	低 30 並 <b>40</b> 高 30% <b>ほぼ平年並</b> の見込み	低 30 並 <b>40</b> 高 30% <b>ほぼ平年並</b> の見込み

↑  
数値は予想される  
出現確率です

平均気温 11月      平均気温 12月      平均気温 1月

北日本      北日本      北日本

西日本      西日本      西日本

東日本      東日本      東日本

沖縄・奄美      沖縄・奄美      沖縄・奄美

低い確率 (%)      50      40      40      50      高い確率 (%)  
↑ 平年並も40

# ⑧11~1月の予報(降水量)

		降水量 11月	降水量 12月	降水量 1月
北日本	日本海側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い 見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い 見込み
東日本	日本海側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並 の見込み
	太平洋側	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並 の見込み
西日本	日本海側	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い 見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い 見込み
	太平洋側	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない 見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない 見込み
沖縄・奄美		少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並 の見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない 見込み

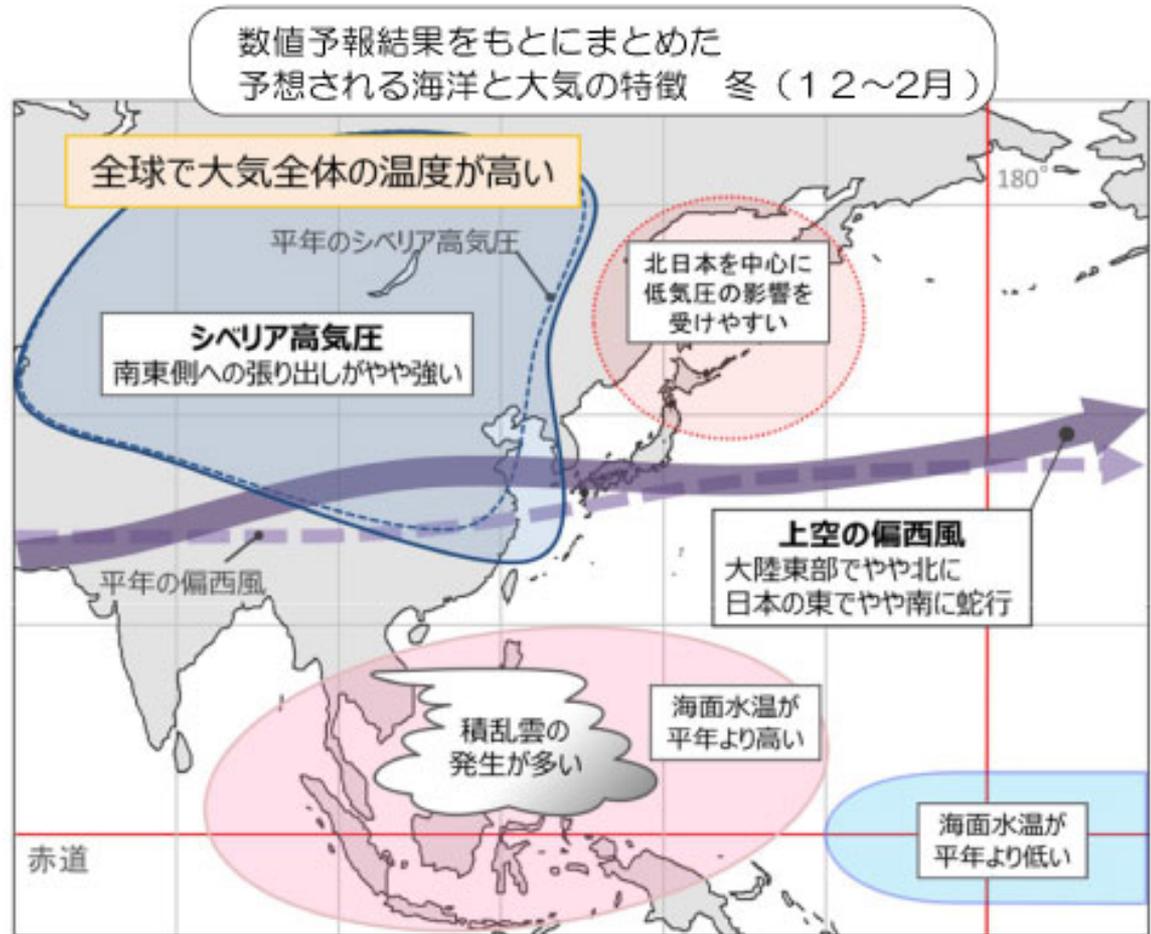
  

降水確率	降水量 11月	降水量 12月	降水量 1月
少ない確率 (%)	50	50	50
40	40	40	40
平年並か40	40	40	40
50	50	50	50
多い確率 (%)	50	50	50

数値は予想される出現確率です

## ⑨2017年12～2018年2月に予想される大気の特徴

- 全球で大気全体の温度が高いでしょう。
- 海面水温は、太平洋赤道域の中～東部では低い見込みです。一方、フィリピン付近では海面水温が高く、積乱雲の発生が多いでしょう。
- この結果、上空の偏西風は大陸東部でやや北に、日本の東でやや南に蛇行するとともに、北日本付近は気圧の谷となりやすいでしょう。このため、シベリア高気圧は南東側でやや強まりやすく、沖縄・奄美～西・東日本には寒気がやや流れ込みやすい見込みです。一方、北日本は低気圧の影響を受けやすく、寒気の影響は小さいでしょう。



# ⑩直近10年の特徴

年	冬の平均気温 平年差℃ (階級)				冬の天候の特徴
	北日本	東日本	西日本	沖縄・奄美	
2007/08	-0.3 (0)	-0.2 (-)	0.1 (0)	0.3 (+)	冬型一時的で南岸低多雨 気温の変動大
2008/09	1.4 (**)	1.3 (**)	0.9 (+)	0.8 (+)	冬型の気圧配置となる日が少なく、全国高温
2009/10	0.4 (0)	0.6 (+)	0.7 (+)	0.4 (+)	全国で気温の変動大 北陸中心に大雪の時期が3回
2010/11	0.6 (+)	0.2 (0)	-0.4 (-)	-0.8 (-)	12月末～1月末日本海側で大雪、低温
2011/12	-1.3 (-)	-0.9 (-)	-0.7 (-)	0.0 (0)	冬型多く、北～西日本は3か月連続低温 最近10年間で 「平成18年豪雪」に次ぐ積雪
2012/13	-1.2 (-)	-0.9 (-)	-0.7 (-)	0.4 (+)	北・東・西日本で低温 北日本日本海側を中心に多雪
2013/14	0.2 (0)	-0.2 (-)	-0.1 (0)	-0.3 (-)	東日本、沖縄・奄美で低温 2月に関東甲信で記録的大雪 日本海側の平地は少雪
2014/15	0.8 (+)	-0.2 (-)	-0.2 (-)	-0.5 (-)	12月は全国的に強い寒気が流れ込むが、1月以降は少雪
2015/16	1.0 (+)	1.4 (**)	1.0 (**)	0.6 (+)	冬型の気圧配置が長続きせず、全国的に高温・多雨・少雪
2016/17	0.5 (+)	0.8 (+)	0.8 (+)	1.1 (**)	日本付近への寒気の南下が弱く、全国的に高温

「2016/17」は2016年12月～2017年2月のことです。  
階級 - : かなり低い - : 低い 0 : 平年並 + : 高い ++ : かなり高い

年	冬の降雪量 平年比% (階級)				
	北海道日本海側	東北日本海側	北陸	近畿日本海側	山陰
2007/08	86 (-)	78 (-)	53 (-)	65 (-)	66 (-)
2008/09	90 (-)	66 (-)	37 (-)	50 (-)	65 (-)
2009/10	95 (-)	79 (-)	91 (0)	41 (-)	43 (-)
2010/11	93 (-)	93 (0)	95 (0)	93 (0)	174 (+)
2011/12	98 (0)	102 (0)	115 (+)	136 (+)	158 (+)
2012/13	100 (0)	112 (+)	82 (0)	85 (0)	64 (-)
2013/14	80 (-)	77 (-)	34 (-)	46 (-)	58 (-)
2014/15	73 (-)	77 (-)	71 (-)	77 (0)	66 (-)
2015/16	79 (-)	60 (-)	47 (-)	32 (-)	38 (-)
2016/17	63 (-)	72 (-)	43 (-)	108 (0)	97 (0)

「2016/17」は2016年12月～2017年2月のことです。  
階級 - : かなり少ない - : 少ない 0 : 平年並 + : 多い ++ : かなり多い

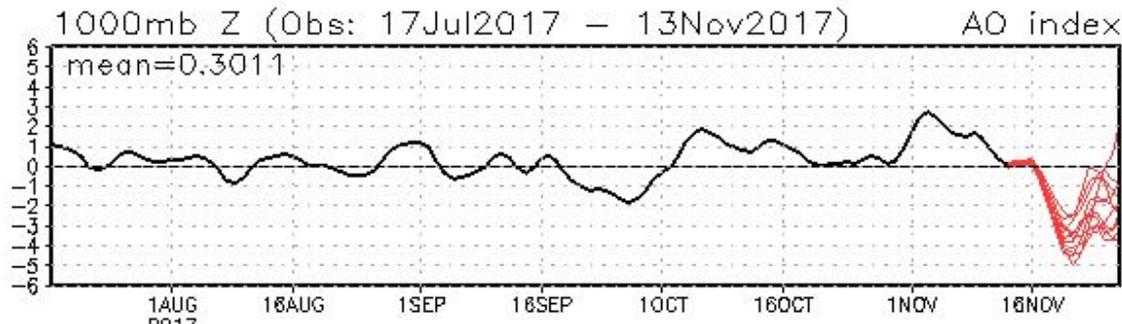
## ⑪まとめ(～2018年2月)

### 【気温】

- 西・東日本を中心に寒気が流れ込みやすく、北日本は寒気の影響は小さい見込み。ただし、**北極振動**の動向に注意が必要。

[http://www.cpc.noaa.gov/products/precip/CWlink/daily\\_ao\\_index/ao\\_index\\_ensm.shtml](http://www.cpc.noaa.gov/products/precip/CWlink/daily_ao_index/ao_index_ensm.shtml)

AO: Observed & ENSM forecasts



「AOマイナス」の時には、北からの寒気の南下が顕著になりやすく、状況次第では日本海側で豪雪に見舞われやすい。

### 【降水量】

- 西日本の日本海側では降水量・降雪量は平年並みか多くなる見込み。
- ラニーニャ傾向が強まったことから、東日本の日本海側ではやや多雨方向に、東・西日本の太平洋側ではやや少雨方向に修正される可能性も。